

市公連だより

第28号
 発行 熊谷市公民館連合会
 編集 熊谷市公民館事務局長 幸川山幸男
 印刷 熊谷市公民館
 電話 048-523-0895

公民館紹介

各世代の人々が
集い交流する館に

佐谷田公民館長
杉浦 肇

佐谷田地区は熊谷市の東部に位置し、佐谷田・戸出・平戸からなる地区で、JR熊谷駅から直線距離にして約1〜4Km程あり、市街化区域・調整区域・農振区域が混在している地区です。

当館は地区のほぼ中心部にあり国道17号と125号の分岐に近く、東部体育館に程近い場所にあります。

当館は昭和42年3月に開館した鉄骨2階建ての市内でも比較的古い建物で、ホール・大小会議室・和室・事務室2室から構成されています。

当館を利用する学習サークルは20あり、それぞれ定期的に楽しみながら学習に励んでいます。特にマジッククラブ

は、他施設からの依頼を受け出張披露を数多くしています。公民館事業として「さわやかほろえみ学級」があり、主なものとして、初夏の花を求め、秋の紅葉を訪ねてハイキング、年度末の歴史探訪の3つのバス利用の研修旅行、年初にはアルト歌手の「小川明子先生」をお招きしての新春コンサートなどを実施しています。今年から地元薬局の薬剤師による「お薬の話」の講座を新設しました。

公民館主催の3大イベントである敬老会・運動会・文化祭があります。36回を数える運動会では、地域の方々の親睦を深める目的を重視し、参加賞競技を、昼の休憩時間と閉会式後の2回行い、米・自転車・カラーテレビ等電化製品が当たる抽選会を実施し、今年から地元病院・薬局による「健康相談コーナー」を設けました。

文化祭では各サークルの成果品展示に加え小学生の作品も展示され、別のサークルによる演技も多数披露されました。小学校のコミュニティスクールの指定に伴い数年前より親子ふれあい教室を設置し、ランドゴルフ・輪投げ・吹矢・切り絵・マジック・しめ縄作りと多岐にわたり、サークルの協力のもと活動しています。これからも各世代が繋がりをもって集い、親睦を深められる公民館を目指して、試行錯誤を重ねながら努力してゆきたいと思えます。

地区に根ざした

公民館活動

三尻公民館長
丹羽 正弘

三尻地区は熊谷市西北に位置し、深谷市に隣接した地域で、三尻小学校区域を主な活動区域とした地域公民館です。

現在の建物は昭和四十一年建設の鉄筋ブロック造一階建

で「ふれあい」「協力」「発展」のスローガンの下、地域の多くの人々に親しまれ愛される公民館になるよう活動を展開しています。

部屋は、ホール・和室・会議室があり、生涯教育活動施設として利用されています。現在の活動グループは十六クラブで文化活動クラブは十六クラブ、運動的活動クラブは五クラブあり活発なクラブ活動を行っています。

公民館活動として「みしり野学級」と称した学習講座を年に十一回開講し、多くの方に出席して頂いています。館外研修は、社会見学を含め年間三回実施し、参加者に喜んで頂いています。



国会議事堂を視察

また、公民館だよりで募集した講座（キムチ漬け教室、

味噌づくり教室、折り紙教室等年間八講座程度）を実施しています。

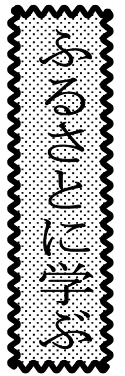
公民館行事は、五月に球技大会（ソフトボール、ソフトバレーボール）、六月グラウンドゴルフ大会、七月クラブ発表会（さくらめいと）、十一月は七つの祝（八坂神社）と文化祭、十二月はしめ縄飾り講習会等を行っています。

地域行事として、八月納涼祭（実行委員会主催）、九月敬老会（自治会と共催）、十月体育祭（自治会連合会と共催）に携わっています。



花王ミュージアムを視察

これからも公民館が地域の多くの方のふれあい交流の場として利用して頂き、生涯学習の拠点となり、より多くの方に楽しんで頂ける活動をして行きたいと考えています。



新堀の歴史と籠原駅

新堀公民館長
大澤 清

新堀地区は県北部、利根川と荒川の間、櫛引台地に位置しています。

地名の由来は「新しい堀」から来ていて古くは畑村であり、慶長のころ（千六百三年）に奈良堰用水が新しく開かれたため「新井堀村」と改称し、後に新堀村となり現在の新堀となりました。

明治二十二年

久保島、新堀、高柳が合併して大里郡玉井村となり、その後、昭和十六年熊谷市と合併し現在に至る。

明治四十二年

高崎線籠原駅開設（十二月十六日）当初の乗降客は百五十名とか。

駅名について、当初は新堀駅とする予定だったが、東京に日暮里駅があり、貨物も扱う関係で間違い易いので、当地区にはないが、播羅郡東方村の小字名に籠原があるので駅名を籠原としたとの話がある（当地区には籠原裏の地名あり）

昭和三十一年
籠原駅舎改築。駅陸橋完成。新堀自治会館建設。

昭和四十七年

籠原小学校開校。此により現籠原南1丁目地区は玉井小より籠原小に編入しました。

昭和五十五年

新堀小学校開校。新堀地区は玉井小より新堀小に編入しました。

玉井自治会連合会より新堀自治会連合会が設置（第一自治会）第五自治会発足

昭和六十一年

（三月一日）籠原新駅舎完成。

昭和六十二年

（三月十三日）JRダイヤ改正、池袋乗り入れ開始、快速タウン運転。

平成三年

（四月二十九日）新堀連合自治会館竣工式。（昭和三十年初めに建設された自治会館は老朽化の為）

平成七年

（四月一日）熊谷市新堀公民館完成。

現在、高崎線は湘南新宿ラインと上野東京ラインが東海道線に乗り入れるようになりまし。又、始発と増結があり益々便利になり今では乗降客は三万人（一日当たり）近い人が利用されています。

又、駅南口は区画整理後、平成五年新堀から籠原南と住所も変わりました。

駅北口も区画整理はほぼ完了（令和元年）新しい地名を検討されているようです。

この様に地名が変わったりしながらも新堀地区は籠原駅と共に発展を続け、新たな歴史が生まれる事でしょう。

石橋供養塔

中央公民館長
森田 安彦

石橋供養塔は、江戸時代中期から明治時代前期にかけて、埼玉県を中心とした関東地方に多く建立された石碑で、人々の往来に欠くことの出来ない石橋が、長く無事であることを祈願したり、橋の安全や行き交う人々の無事を祈って建てられました。

「供養」という言葉は、現在では「冥福を祈る」と同義語として使われますが、江戸時代には、加護や感謝、さらに

は成就や祈念という意味合いがあったと考えられています。

明治一五年埼玉県編さんの『武蔵国郡村誌』によると、市内には一八〇本余りの石橋が存在したことが記されており、現在、石橋供養塔は二〇基程が確認できます。

市内に残る代表的な石橋供養塔を紹介します。

- ① 和田川石橋供養塔
所在地：小江川地内
造立年：文久四年
造立者：世話人三名



- ② 薬師堂石橋供養塔
所在地：永井太田地内
造立年：寛政一年
造立者：僧侶一名



- ③ 成田用水石橋供養塔
所在地：箱田地内
造立年：明治一六年
造立者：斎藤蔵之助利勝

- ④ 通殿川石橋供養塔
所在地：中曽根地内
造立年：寛政一〇年
造立者：中曽根村講中



それまでの土橋に替え、石橋を架けることは大変な資金と労力が必要となりました。奈良の吉田市右衛門宗敬、石原の志村養庵、箱田の斎藤蔵之助利勝、柿沼の光運和尚等は、私財を投じて多くの石橋を架けたことにより、その遺徳に感謝し、市右衛門橋・養庵橋・光運橋と、名前を冠した橋名が付けられました。

現在石橋は、コンクリート橋に架け替えられ、ほとんどが現存しませんが、当時の人々の思いを伝える石橋供養塔は、郷土の歴史を伝える貴重な資料として、今後も大切に残していきたいものです。

学級講座紹介

「世代間交流事業」

地域伝統行事の継承

(まこも馬作り)

星宮公民館長

前澤 保雄

星宮公民館は、熊谷市の東に位置し「二級河川星川」が地域の中央を流れる農村地帯にあります。

当公民館は、年間約30項目の事業を実施していますが、今回はこの中で「長寿会」の協力を得て子供たちに地域の伝統を伝える「世代間交流事業・まこも馬作り」を紹介します。

「まこも馬」は古くから星宮地区の七夕行事の一環として各家庭で行われてきた伝統行事です。

なぜ、このような行事が昔から行われてきたのか疑問に思い調べてみました。

「真菰」は稲作が日本に伝わるまで「衣・食・住」の中心となる植物であったそうです。新芽は食し、日に当てた物は敷物や枕に、そして雨具や屋根材等の生活用品として利用

されてきました。

その名残りなのか今でも伝統を重んじる行事に使われています。歴史・格の有る神社でも真菰で編んだ草枕が「御神体」に、また例大祭が「まこも祭り」として行われている神社もあります。

真菰は日本人の暮らしに切り離せない存在が長く続き、いつしか「聖なる草」「癒しの草」「霊草」として扱われるようになったと考えられます。



仲良く作っています

昭和天皇が崩御され、その御遺体を収めた棺の下にびっしり敷き詰められた真菰が重要な存在であると考えられる「証」となります。

このような真菰で作る飾る

行事が「星宮地区」には「まこも馬」として残っています。

長寿会の皆様、星川でまこも刈り取り三日ほど日に当てた物を使用して作ります。公民館事業に参加した三世代の皆様が「まこも馬」を作った事を記憶にとどめ、次世代の子供達にも教えてあげられる事を願い事業を遂行しています。

魅力ある公民館

活動を目指して

小島公民館長

舞原 國雄

小島公民館 さて熊谷市のどこにあるのか、聞き慣れない方がいらつしやるのではないのでしょうか。よく間違えられるのが、旧熊谷市の小島地区です。そこでまず、妻沼小島地区を紹介します。当地区は熊谷市でありながら群馬県太田市に隣接する飛び地です。

利根川が運んだ肥沃な土壌により昔から野菜作りが盛んな地域です。また大和芋の産地として名をはせています。

社会の趨勢と同様、少子高齢化が進み、児童・生徒数が

減少しました。結果、小中学校共、十年前に休校を余儀なくされました。学校は、地域の中核を担っていることは言うまでもありません。地域が活力を失う事でもあります。

地域の活性化を維持するためには、公民館活動の負うところが大変大きくなってきます。

地域の人たちが寄り合い、様々な公民館活動を通して、日常生活を充実させる必要があると思います。学校は休校し、施設(校舎・体育館、校庭)等は、市教委から管理を公民館に委託されています。校庭の除草や建物の清掃等大変な面もありますが、事業を計画実施する上ではとても便利に利用しております。



運動会

ここで、年間事業計画に基づいて実施している主な事業について紹介します。趣味的な事業としては、七月に朝顔

展・十一月には菊花展と、二十数年来行っている好評の事業です。

希望者に朝顔の種を配布したり、地域の菊の愛好家に苗作りを依頼し素晴らしい作品に仕上げています。九月と一月に草木染め教室を実施し、これも長年続いている事業で、公民館祭りに出品しますと大変関心を集めています。また、今年度で三回目になります。クラブバックづくりでは、大変手間の掛かる作業ですが、実用的な作品に仕上がりました。また好評です。地域全体の行事としては、夏の納涼祭、秋のレクリエーションフェスタ等、他地区ではあまり行われていない特色のある事業ではないかと思えます。さらに写真教室では、撮影の腕も上がり参加者も意欲的です。しかしながら、マンネリ化している傾向にあり改善の必要を感じます。

いかに魅力ある公民館事業を推進するか、いかに新規の参加者を増加させるかが、今後の課題です。

新旧館長あいさつ

宮町公民館長

上村 悦子



本年7月、館長に就任しました。地域住民の皆さんが気軽に集い、学び、交流する場となるよう、公民館事業の推進に微力ながら力を尽くしたいと思っております。

ところで、本公民館は館がありませんので、活動は中央公民館を利用しています。場所は、宮町公民館区域の外、西側にあり、少々不便ですが、先日開催した「人権講座」は17名が出席して充実した時間を過ごすことができました。実は、事務局が講座を開設するには諸条件があります。それらを考慮するとなかなか

職員等研修会・講演会報告

新講座は実現できません。そうした時、本公民館は、熊谷市の市政宅配講座を積極的に活用しています。十種類のジャンルで15講座もあり、場合によっては担当者や協議して内容を定めることができます。強い味方となっています。

私たちの宮町公民館は、今後も地域の皆さんに開かれた場所として、ともに明るく楽しく運営していきます。

前宮町公民館長

小沼 博靖

この度、宮町公民館長を退任する事となりました。

平成二十二年四月からの在任中は、多くの皆様の温かいご指導と、ご協力を得ながら職務を大過なく果たすことができました。ありがとうございました。御礼申し上げます。これからも、市公連の益々の発展と皆様方のご活躍を祈念申し上げます、退任の挨拶と致します。

多数の館長、主事、職員の皆様の参加を賜り、恒例の「職員等研修会」が7月30日に江南公民館において開催されました。前半の事例発表は、第5ブロックを代表して中条公民館と、第6ブロックを代表して長井公民館が行いました。



中条公民館の発表

長井公民館は地域の憩いの場として様々な取り組みをしています。安全、安心な場

中条公民館の事例発表の内容は、「まなぶ」「むすぶ」ことを

「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり、地域づくりに貢献することをテーマにいくつかの事例を発表されました。小中学生、自治会が一緒

より良い交流の場となるよう、また、地域の方が気楽に来館でき、生涯学習の一環となることを目指しています。

特に子供たちの交流を大事にしており、異学年児童同士が交流できる安心で安全な場所を提供しています。また、

のは昨年から開催され、六百人が参加する中条大縁日祭です。公民館文化祭やPTAのバザー、そば打ちや豚汁の提供、ヨーヨー釣りなど盛りだくさんのイベントが行われました。また子供がスタッフとなり活躍するなど、テーマに沿ったものになりました。

地域の方々のふれあいを大切にしたサロンがボランティアサークルの協力を得て開かれています。楽しい憩いの場として、また、お互いの健康を確認しあう場として、毎回参加者が増えているそうです。後半は立正大学教授工学博

士の後藤真太郎先生を講師にお招きして、「比企丘陵の風土共創」―農業遺産登録申請に向けて―という演題で講演をいただきました。



長井公民館の発表

千五百年前から行われている、農業者により培われた谷津沼農法をこれからも持続可能なものとして保存するため、農業遺産として登録しようとする活動している後藤先生の取り組みをうかがいました。

また、地域資源を生かした価値共創、消費者との価値共創、地域内外の人々との価値共創の三本柱により、農業遺産を維持し、持続可能な地域を醸成していくというモデルケースを学びました。

(編集委員 事務局)

視察研修報告

蕨市北町公民館を訪ねて

館長、主事、職員26名が参加し、10月25日に視察研修を実施しました。午前は新座市の平林寺を視察しましたが、台風21号と低気圧の影響による強雨のため、残念ながらそくさとバスに戻る参加者が多数でした。

ちなみに、蕨市は全国に先駆けて成人式を「成年式」という名称で開催。現在でも「成年式」の名称で20歳の式典を行っているそうです。



北町コミュニティセンター入口

最初に蕨市の概要と、熊谷市との比較に関して説明を受けました。蕨市の面積は5.1平方キロメートルで、熊谷市の30分の1程度で、全国で一番小さい市です。

人口は約7万5千人で、6〜7年前から増加の一途をたどっています。人口密度は約1万4千人/平方キロメートルで、これも全国一であるとのことです。

さて、本題に戻り、蕨市内には7つの公民館が存在し、すべて半径500メートルの範囲内にあるそうです。公民館ごとに固定化された利用者の地区はなく、複数の公民館を利用することが一般化しており、柔軟な運営がなされています。

また、7つの全ての公民館が優良公民館表彰を受賞。北

町公民館は平成30年11月に文部科学省より受賞しています。なお、受賞に際し評価された点は以下の通りです。

① 「誰でも楽しく気軽に」

健康づくりを学べる事業に取り組んでいること。特に「遊びからスポーツを学ぶ」をキーワードに、青少年の基礎体力の向上や運動習慣の定着をはかる事業を展開していること。

② 町会や子ども会、地域女性団体との協働による事業

を行っていること。また、企業やNPO法人による講座運営の協力、公民館利用団体と連携した体験講座の実施など、蕨市や近隣市で活動する様々な団体と連携



児童館の視察

協力していること。

北町公民館は、市民体育館と児童館の複合施設で、平成8年の公民館設置特別委員会を設置し、2階部分を改装し、耐震工事を経て現在にいたっています。

利用人数は1日80〜100人で年約3万5千人とのこと。市民体育館は1日300〜350人で年間15万人であるとのことでした。



体育館内のボルタリング

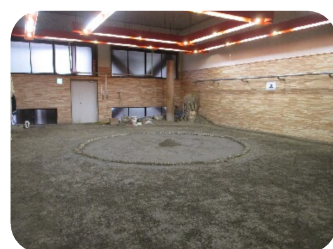
青少年の利用者が多く、北町スポーツクラブにいたっては、募集人数40名のところ80名の応募があるほど盛況です。要因として考えられるのは、大きな公園がないことや、公園があってもボール遊びが禁止されている等であることだそうです。

公民館と児童館が連携して開催される家庭教育学級、高齢者の健康づくりを目的とした高齢者学級、地域との連携を図ることを目的としたコミュニティ祭り、クリスマスコンサートなど、すべて取り上げることが困難なほど多種にわたる事業が行われています。

一通りの説明の後、市民体育館、児童館を含め、施設見学をさせていただきました。中でもボルタリングの施設には、参加者の皆様が多く興味を抱いたようで、見学に多くの時間が注がれました。また、相撲の土俵まであることには皆さん驚愕しました。

その後、質疑応答を経て、山川会長の謝辞の後、帰途につきました。実りある研修でした。

(編集委員 事務局)



相撲の土俵

源宗寺本堂保存修理プロジェクト

仏像の美と信仰の歴史をめぐる

熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

魂の調和と仏像

古代ギリシアの時代、哲学者ピタゴラスの思想を背景として、世界の本質を知る最も重要な学問に「数論」、「幾何学」、「天文学」、「音楽」があり、これらの追究が日常生活から宇宙全体までを支配する「調和（ハルモニア）」の原理を解き明かすと考えられていた。一方、プラトンは人間の魂を「理性」、「気概」、「欲望」に区分し、魂の調和により「正義」が実現されると説いた。「調和」とは、職人による各部材の完全なる接合というギリシア語から派生し、事物や現象の全体的な均衡の美を意味している。

反する立場を包容する。人間はこうした調和への祈りや願いを込めて、仏像に対する信仰や仏像の美を愛する文化を継承してきた。熊谷の郷土と深く関わる仏像の歴史。その一つが平戸の源宗寺で息づいている。

現実と理想を結び付け、相



老朽化が見られる源宗寺本堂

二体の仏像は台座と光背を含めると約4・5メートルの規模を誇り、「平戸の大ほとけ」と呼ばれている。仏師の宗円と江戸弥兵衛が制作を担い、中西村の喜兵衛や沼黒村の太兵衛ら近隣出身の塗師が丹念な技術を発揮した。木彫による造形美と重厚感が融合した迫力ある寄木造で、円形の光背も壯観。表面は金箔の

源宗寺と「平戸の大ほとけ」

源宗寺は17世紀初頭に藤井雅楽助が開基し、薬師如来と観音菩薩の二体の「木彫大仏坐像」が横に並び鎮座している。仏像の存在は武蔵国の地誌『新編武蔵風土記稿』にも記され、古くから地域の歴史とともにあった。寛文2（1662）年に制作、元禄14（1701）年に再び着手され現在の本尊となる。また、薬師如来については形態から阿弥陀如来との説もある。

上に黒漆を塗る技法が用いられ、光沢を帯びている。仏像には薬の秘伝書が収納され、これを調剤した妙薬が評判となり多くの参拝者を集めた。「平戸の妙薬」とも呼ばれ、薬師如来信仰とも密接な関係があった。



平戸のおおほとけ

（向かって右側が薬師如来、左側が観音菩薩）

源宗寺本堂の保存修理事業

二体の仏像が安置される源宗寺本堂は「千日堂」と呼ば

れ、仏像の制作と同時代に建立された。古都奈良の東大寺大仏殿に模した形状と伝承されている。江戸時代半ばに洪水被害を受けた後、建物の丈を下げる改修や壁の補強が実施されたが、建造物の全体における老朽化が進み、仏像の保存にも支障が生じることが懸念されている。

こうした事態に対応すべく当寺護持会、東竹院、地元平戸地区、事業賛同者、熊谷市教育委員会を中心とした保存修理委員会が結成された。総工費約5千万円を想定とした保存修理事業の実施を予定している。

長い時代を超えて黙想を続けている大仏。調和した仏像の美が人間の魂に希望を与え、信仰の歴史を未来へと繋げる。その理想を目指して、今回のプロジェクトが進められている。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げる次第である。

公民館訪問記

『断捨離®教室』

寄居町中央公民館

「おじいちゃん、どこで寝てるの？」と孫に言われて片付けを決意、参加申込みしました。これは、受講動機を講師から訊かれたときに返された答えのひとつです。

他にも、「退職を機に、これまでできなかった片付けに取り組みたかった」「以前、思い切って処分したら、後になって必要になり後悔したので、選ぶ基準と捨てる基準をどう設定するか学びたい」など、受講生皆さんの動機は様々です。

10月2日(水)から始まった『断捨離®教室』の第1回目、定員20名の募集に23人の出席があり、関心の高さが感じられます。

また、講師が一方的に話をするのではなく、受講生と対話しながら講義を進めていくスタイルで、受講生だれもが生き生きと話をする様子が見られました。

当日頂いた資料には、断捨離ってなあに？・片付けられない最大の理由はなに？・今日から何をすればいい？・あなたの断捨離したいモノは何ですか？・片付いた家でどんなことをしたいですか？などと記されていて、講座がどんなふうに展開されていくのか興味が沸きます。

講師の方が講義の冒頭で言われた「すべての道は断捨離につながる」の言葉がとても印象に残り、全6回の講座を受講してみたくくなりました。



高齢者健康教室

深谷市幡羅公民館

『一生歩ける体をつくろう』というサブタイトルに惹かれて、全2回講座の初日にお邪魔しました。

25名(内男性1名)の受講生は、皆さんヨガマットに座って講義がスタート。

足(内腿)のマッサージに始まって、前屈して体の柔軟性をチェック。お尻を揺らし、左右に動かし、お尻歩きをしてウォーミングアップ。

続いて、足首・足指をゆっくり回しながら柔軟性を高めていきます。様々な方法で足首・足指を柔らかくしていき、足指で「ゲー・チョキ・パー」初めは、戸惑いながら体を動かしていた方も、講師の巧みなリードで、徐々に動きがスムーズになっていきます。

仰向けに寝て体を左右に動かし、骨盤や股関節のバランスを整えていくころには、皆さん初回とは思えないような動きになっていました。

講師の「関節を動かし、筋肉をほぐすのは、テレビを視ながらでもできる」「イライラするのは体が歪んでいるからで、体を左右にねじる体操で解消できる」「一生歩きたかったら、足首の柔軟性が大事」等々の説明は、受講生(高齢者)の心を揺さぶり、やる気を引き出していました。



公民館を利用した

子育て広場『のびのび』

清水 好江
新井 道子

熊谷市内には、子育て支援拠点が十九か所あります。

ご自宅やご実家の近くで拠点を利用することができます。

子育て広場『のびのび』は平成二十一年に各中学校区に一か所の拠点の一つとして大麻生公民館の二階に開設されました。毎週火・水・木曜日の午前十時～午後一時まで、子育て中の子どもやママ・パパ、ご家族が気軽に利用できる場所です。季節の行事や大型絵本の読み聞かせ・作っちゃん・おう・保健師の子育て相談・ミニ講座を行っています。

窓から田園が広がり、遠くに新幹線を眺める広い畳の部屋で、ママ達は時には励まし合い、わが子の可愛さを認め合いながら共に育ち合っています。



ます。

また、ランチタイムを設けており、食育の交流ができるだけではなく、必要な知識や情報を得ることが出来ます。

他にも、公民館への移動図書館「さくら号」、保育センターの保健師による「がんばる女性の健康セミナー」等の市と連携した事業のほか、地元ボランティア「すずかけハーモ

ニー」の皆さんによるハーモニカの演奏会も好評です。



今後もし市内の様々な機関・団体と協力しながら、安心して居心地のよい子育て環境を得られる取り組みを行ってまいります。

この広場を卒業したママからは、「ここがスタート、広場が原点、『のびのび』が故郷」という声が聞かれます。

「ここが、あるよ。ここに、いるよ。（熊谷市地域子育て支援拠点連絡会『くまつしえ』スローガン）」のもと、広

場はいつでも子育てを頑張る皆さんを待っています。



今後もし子育て広場『のびのび』では、大麻生公民館をはじめとした地域の皆様のご協力を頂き、ママ・パパが孤立することなく子育てを行うことができるように、子育てを社会全体で支える取り組みを行ってまいります。



熊谷市公民館まつり

「公民館まつり」が開催されます。
○日時 令和2年
3月7日(土) 10時～16時
3月8日(日) 9時30分～15時
○場所 妻沼中央公民館・展示館
○内容 舞台発表と作品の展示
お誘い合わせの上、お出かけください。



編集後記

令和元年後半は、即位の礼、ラグビーワールドカップ、自然災害等人々の記憶に残る年となりました。今回も各公民館の状況や取組、地域の歴史、研修報告等、皆様の参考になる市公連だよりを発行する事ができました。寄稿して頂きました皆様そして地区のために活躍して頂いている皆様に感謝申し上げます。